

## オニオコゼ種苗を出荷しました

当所では、オニオコゼの種苗生産に関する試験研究を平成8～10年度に行い、平成13年度から本格的に種苗生産を行っています。現在は全長15mm、5万尾を目標に生産しています。

オニオコゼの種苗生産で一番重要なのは、良質な卵の確保とふ化後の初期飼育です。良質な卵を得るには健全な親魚の飼育が必要ですが、餌付けが難しく棒の先に針金をつけた道具に餌のシロギスやコノシロなどの魚をつけ目の前で揺らして食べさせています。

令和2年度は1.7千万粒の受精卵（浮上卵）を得ることができました（写真1）。当所では、親魚の飼育水を加温していないため、1日の産卵数は飼育水温の影響を受け変化しますが、種苗生産に用いる受精卵を十分確保することができました（図1）。

次に、ふ化後の飼育ですが、近年ふ化から35日までの生残率が10%台と低く、多くの受精卵を種苗生産に用いています。

令和2年度の種苗生産は、飼育初期にへい死があったものの約6万尾を中間育成用に出荷することができ（写真2）、9月下旬には平均全長45mmの放流用種苗が沿岸の市に配布されました。

漁獲量の経年変化は、業務の話題 平成30年11月14日「オニオコゼの小型魚を保護しよう！」に掲載されています。種苗放流を始めて年変動もありますが漁獲量は増加しています。

放流種苗が順調に資源に添加され、漁獲量が安定することで、美味しい地魚であるオニオコゼが様々に調理され食卓に登ることを祈っています。

（栽培・資源研究室：小橋）

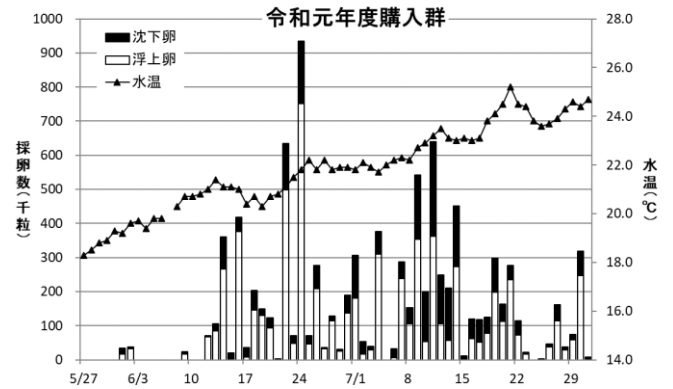


図1 令和元年度に購入した親魚の産卵状況



写真1 受精卵（直径 約1.3mm）



写真2 出荷された稚魚